

# 自信と誇りを取り戻す観光の力

COLUMN  
県内  
大学発

## 経世済民

646

コロナ明けとサクラの季節が重なり、日本の次の基幹産業として約20年をかけて熟成させてきた国内旅行・海外旅行・インバウンドの観光政策が再始動し始めた。日本人による国内旅行の復活、次いで日本人の海外旅行、最後に2025年の大阪・関西万博を契機にインバウンドの完全復活、と需要回復のシナリオを予測していたが、円安が海外旅行ムードを押し下げ、逆にインバウンドの急激な復活に寄与し、それにより宿泊業界の人手不足が露呈されよことは皮肉なものである。

コロナが残した教訓として、小中学生、高校生の修学旅行・教育旅行以外は再びの感染症拡大のリスクが伴ったために根底から見直され、休暇の平準化や旅行先の地方への分散が定着しつつある。これには外資系ホテルの新規開業が地方にまで拡大していることも一役買っている。そして副産物的に最上のサービスマイルを重視する世界の富裕層へ向けた商品化や魅力発信もコロナ前より活発になつてきた。とはいえ地球温暖化防止のためのエコや環境への配慮、これらの観点を置き去りにしては、いくらソフトの魅力は群を抜いていても選ばれる国とはならない。本学で観光を学ぶ学生においてもこの2年間、環境省との「国立公園オフィシャルパートナーシップ」契約に沿った学習をじつじつと定着させてきており、企業との連携フェーズとなつた今、観光と環境の関係性についてさらに深く考察ができるであろう。

活動を開始して2年目の期末

### 川口短大 富吉 光則 ビジネス実務学科 准教授



である本年1月に、初めて対面でのピッチイベントが新宿御苑で開催された。昨年9月にこの活動の一環としてフィールドワークを実施した場所だ。当日は、環境省の各地域で活動されている職員の方々、それぞれの目的で活動されているメンバーシップ契約の企業・団体の多くが一堂に会して意見交換を行った。

ホスピタリティーとおもてなしを提供する仕事は、人工知能(AI)にとつて代わられることはない。人に接することで満足度が増すためさらに深く人間に依存していくのが旅行である。日本人が自らの地域や製品を見つめ直す機会を得ることによる自信と誇りの醸成とイノベーションが、日本人と日本全国が成長し進歩していくことにつながる、それが観光の見えない力である。

本学は大学教育機関として唯一参加し、Z世代と言われる学生たちがこの2年間どのようこの活動に取り組んできたかを紹介した。コロナ禍であっても少しでも新しい学びの機会をと実践してきたこの活動は、1年目の夏から箱根温泉旅館との長期インターンシップ契約とその派遣につながる、昨年は高級ホテルを運営する企業にまで拡

とみよし・みつのり 神奈川県経済学部貿易学科卒業。旅行社・エアライン関連勤務を経て非常勤講師を歴任後、2020年より現職。航空・宿泊・観光・ホスピタリティーなどの観光ビジネス科目担当。観光庁「インバウンドの地方誘客促進」と「世界水準のDMO形成促進事業」専門家にも従事。専門は地域活性化と受け入れ環境整備。